



BβEテLH通E信L

2026年2月号（第271号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

アロマの香りに癒されます

14年前からアロマセラピーのボランティアに来てくださっている方がおられます。香りの精油（ラベンダー、ローズマリー、レモン、サイプレス、フラキンセンスなど約24種類）をもって病室を訪れ、その日の患者さまの体調に合わせた香りを選びます。季節によっては抗菌、抗ウイルス作用があるといわれる精油が選ばれることもあります。基本のオイル（オリーブオイルなど）にこの精油を数滴たらし、それをたっぷり手に取って、患者さまの（これまでのきつい治療や病気によってむくんでしまった）手や脚を優しくマッサージしていただきます。病室中に、時には廊下にまでそのアロマの香りが漂い、患者さまだけでなくお見舞いに来られたご家族や、通りかかったスタッフもその香りに癒されます。マッサージの間、気持ちよくて眠り込んでしまう方、香りによって心がほどけて辛かった治療のことを思い出して涙ぐまれる方、昔の楽しかった思い出などお話される方もあります。匂いを感じる嗅覚は脳の感情中枢と直接つながっていて、匂いによって記憶を呼び起こすといわれています。匂いを感じることで「過去の自分」に瞬時に戻ることができるタイムマシンのようです。

聖書に、ベタニア村に住むマリアの話が書かれています。イエス・キリストが捕らえられ十字架にかけられる2日前のことです。マリアはとても高価な香油をベタニア村を訪れたイエスの頭に注ぎました。イエスの弟子たちは「高価な香油を無駄遣いする」と非難しましたが、マリアはイエスが十字架にかけられることを感じて、自分にできる最大限のおもてなしをしたのです。

キリスト教の愛の精神を基本理念とするベテル病院にも、ベタニア村のマリアのように患者さまを香油で癒してくださる方がおられるのです。



（ボランティアコーディネーター 森 菊子）



貝はどっちを向いている？



年が明けてはや1ヶ月近くが経ちましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

冬は寒いだけでなく、何かと感染症が流行るなど嬉しくないことが多くあります。しかし一方で美味しいものに出会えるといった、嬉しいことも数多くあると思います。みかんは言うまでもありませんが、海の幸なんかも種々のものが旬を迎え、例えば牡蠣（カキ）やホタテなどは非常に美味しいですよ。私は生き物が好きなので、今回はそんな貝、特に二枚貝について、私が（美味しい、ではなく）面白いと感じたことを少しお話させていただきたいと思います。

二枚貝は軟体動物と言われる生き物の仲間、皆さんご存知の通り、殻を閉じて本体を包み隠し、身を守ります。多くの二枚貝が、砂泥の中に潜ってあまり動かず、水管と呼ばれる細い管から微生物や有機物を吸い込んで栄養としているそうです。

殻を持っているその姿が特徴的ですが、私は最近まで、二枚貝の向きは、殻が「上下」に開くようなポジションが本来の向きだと思っていました。下側の殻がそのままお腹に相当するようなイメージですね。しかし、実際は違っていました。

二枚貝の祖先を辿ってみると、かつては1枚の殻を背負った姿の生き物だったと考えられているようです。本体の背中側（上）に殻を、お腹側（下）を地面（砂など）にくっつけることで本体を守りながら生活していたわけです。そしてその殻が、進化の過程において正中線（本体の前-後のライン）で折れ曲がるように変化していき、最終的に2枚になったのが二枚貝だそうです。殻の形は変わっても、本体の向きは今も変わりません。上に背負っていたものが二つに折れると本体の左右に位置するようになるので、二枚貝の殻はそれぞれ「上下」ではなく「左右」の殻になる、ということです。初めてこれを知った時には、非常に興味深く感じました。さらに言えば殻の「蝶番」の部分が背中、その反対側がお腹になります。もちろん前後も決められていて、水管がある方が後ろ、というような大まかな見分け方があるものの、貝によって違いや例外があるようです。なお牡蠣では、平らな殻の方が右、膨らんでいる殻が左、とされています。牡蠣を焼く際に、「まず平たい面を下にして焼いて、その後ひっくり返して…」と説明されることが多いと思いますが、私達の専門用語で手短かに言い換えると、右側臥位→左側臥位にしてください、ということですね。

この冬は残念ながら瀬戸内海の牡蠣が記録的な不漁となっているそうですが、もし出会う機会があれば、そんな部分にも注目してみたいはいかがでしょうか。

（ホスピス医 松井 貴司）



インフルエンザが流行中 —インフルエンザ感染症に備えましょう—

コロナが猛威を奮っている間インフルエンザが影を潜めていた感がありますがこのところインフルエンザが流行期に入っているようです。
インフルエンザの知識を深めて流行を乗り切りましょう。

インフルエンザの基本

流行期は11月から4月にかけて起こりますが近年は夏季にも発症例が認められます。

高熱やのどの痛み、関節、筋肉の痛みなどが引き起こされる感染症です。

ウイルスによって生じる上気道の炎症でいわゆる「かぜ」の一種とみなされます。

A型とB型があり毎年流行を繰り返すのはA型が多いです。

診断はインフルエンザ抗原の迅速測定キットを用い早期診断が可能です。

※今年国内で流行しているのは主にAH3亜型で検出されたウイルスの約94%を占めています。
次いでAH1pdn09が3%、B型が3%と続きます。

インフルエンザの感染経路

インフルエンザの感染経路は大きく分けて「飛沫感染」「接触感染」の二つがあります。

- ①接触感染→感染者が触れた物体や表面に付着したウイルスに他の人が手で触れその手で口や鼻、目などの粘膜に触れ張り付かせることで感染します。
- ②飛沫感染→感染者が咳やくしゃみをした際に放出されるウイルスを含む微小な水滴を周囲の人が吸い込むことで感染します。

環境下で数分以内にウイルスが死滅するのならいいのですがしばらくの間生き残ります。
くしゃみなどで環境下にばらまかれたウイルスは環境中にそのまま生存し感染源となってしまいます。

**手指衛生はもちろん、環境の消毒にも気を配りましょう！
マメに手洗い、マメにマスクでインフルエンザ予防！**



次回はインフルエンザの検査についてです。

参考資料：厚生労働省「インフルエンザ総合ページ」国立感染症研究所「インフルエンザとは」

(臨床検査技師 濱田 秀美)

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

2月4日（水）、2月18日（水）

◎2月の休診（1月23日現在）

2月19日（木）松井 貴司 医師（内科）



松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

2月 接遇目標

二〇二六年 二月の接遇目標

寒い日も 笑顔の声かけ
心に届け 思いやりの心

接遇委員会

接遇委員会

1・2月 医療安全推進目標



医療安全委員会

新人紹介

いちやなぎ あかり
一柳 愛佳理



配属部署：4階病棟

職 種：看護師
抱 負：新しい環境で多くの事を学びながら、患者さまに安心していただけるような看護をしていきたいです。

初暦
白き息して
日をめくる
ベテル旬会
(亀井 悠生)

わかまつ かおり
若松 かおり



配属部署：臨床検査課

職 種：臨床検査技師
抱 負：緩和ケアについて日々学びながら患者さまに接することができればと思っております。よろしくお願いいたします。

2026年の節分
2月3日（火）
恵方「南南東」



- ・投函箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投函をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人、ご家族の許可を得ています。

発行日 2026年1月23日